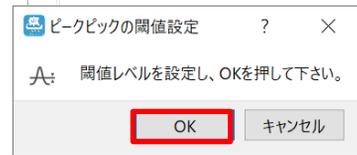
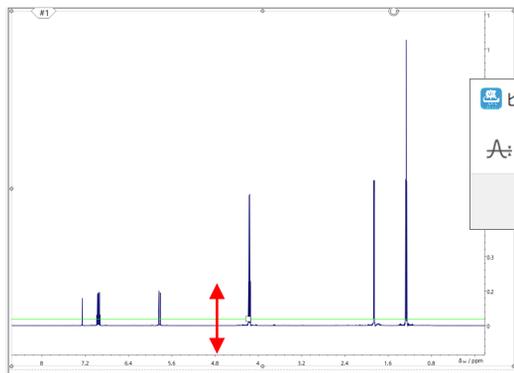
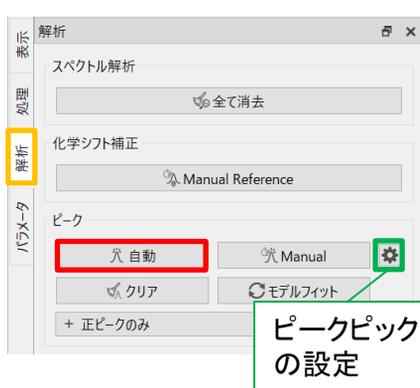


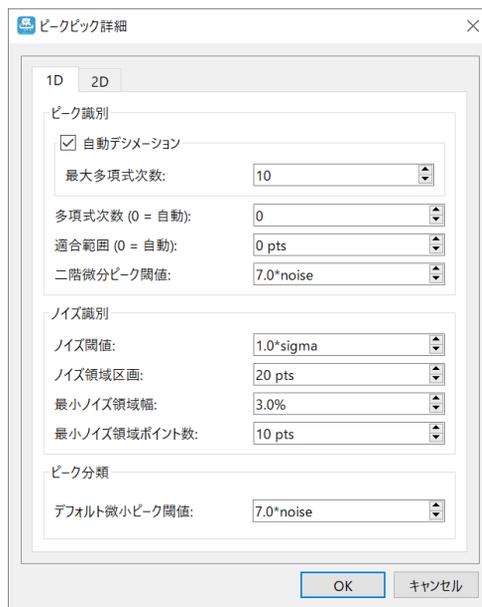
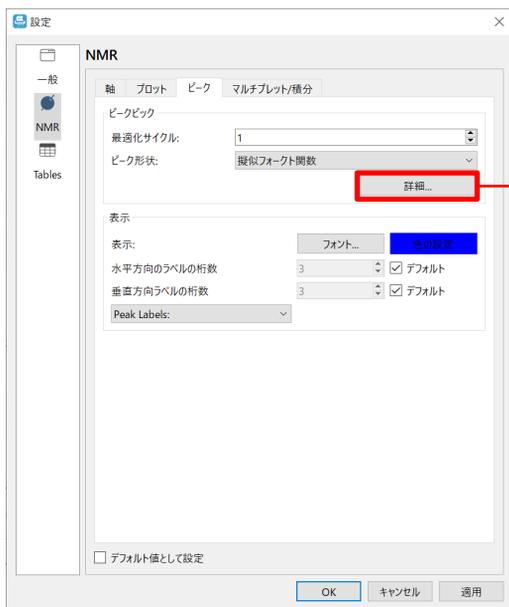


▷ 自動ピークピック

解析タブページの‘ピーク’の[自動]ボタンをクリックします。表示された閾値レベル(緑色の線)を設定すると、閾値レベルより上にあるピークが自動的に検出されます。



なお、自動ピークピックの設定を変更したい場合は以下の手順で変更が可能です。解析タブページの‘ピーク’の右端の歯車ボタンをクリックし、‘設定’画面を開きます。この画面ではピーク形状(疑似フォーク関数 or 汎用ローレンツ関数)などを選択できます。さらに‘設定’画面の[詳細]から‘ピークピック詳細’画面を開くと、ピーク識別条件やノイズ識別条件などが設定できます。

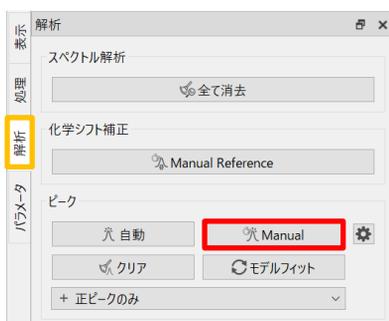




自動ピークピックで追加されないピークがある場合や自動で追加されたピークを削除したい場合などに、手動ピークピックを使用します。

▷ 手動ピークピック

まず、解析タブページの‘ピーク’の[Manual]ボタン、またはツールバーの[Manual peak picking]ボタンをクリックします。

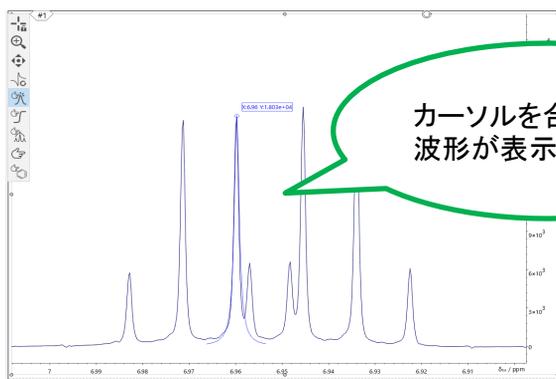


Manual peak picking

または

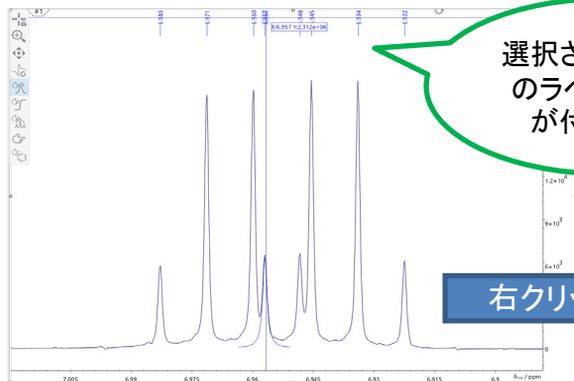
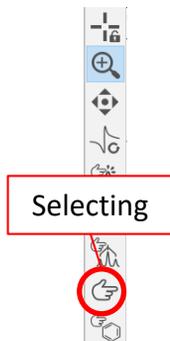


ピークを追加する場合は、追加したいピークにカーソルを合わせてクリックするとピークが追加されます。



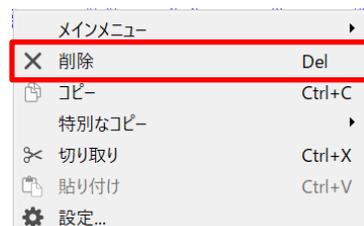
カーソルを合わせると
波形が表示されます。

ピークを削除する場合は、まずツールバーの[Selecting]ボタンを押し、削除したいピークのラベルを選択します。ピークが選択された状態で右クリックし、[削除]を選びます。



選択されたピーク
のラベルには色
が付きます。

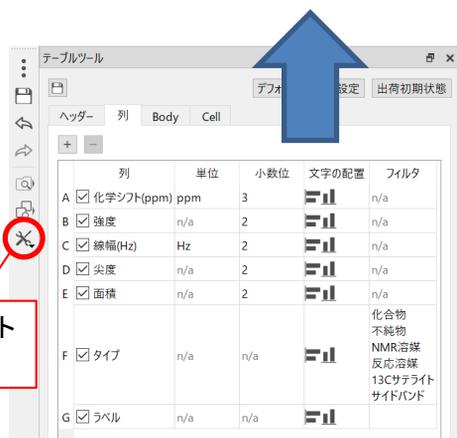
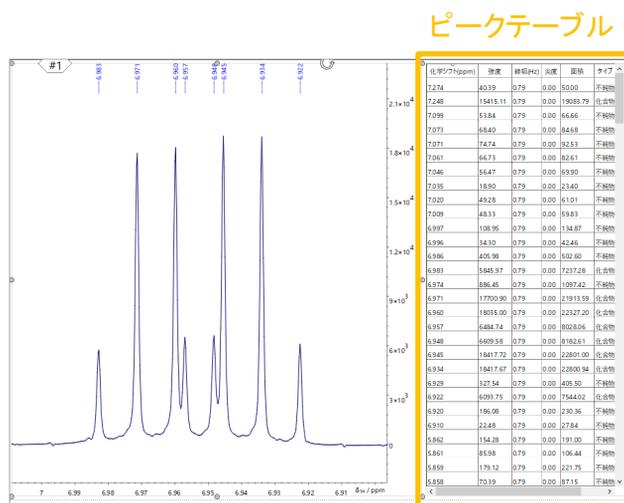
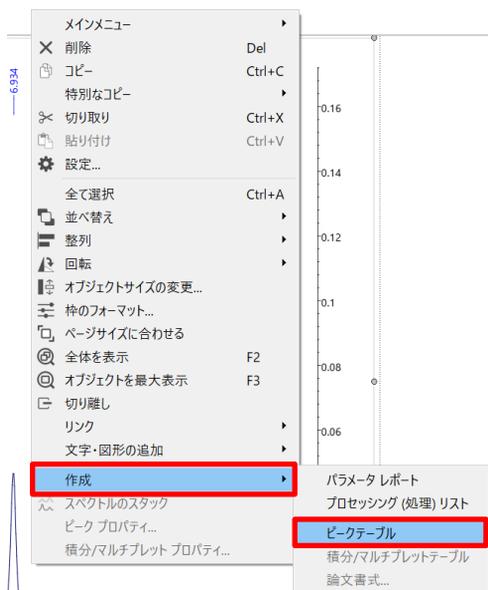
右クリック





▷ ピークテーブルの表示

ピークピックを行った後、スペクトル上で右クリックをし、[作成]⇒[ピークテーブル]を選択します。そうすると、スペクトルの隣にピークテーブルが表示されます。ピークテーブルに表示するパラメータはテーブルツールから選択できます。(テーブルツールはコンテキストツールボタンから開くことができます。)



※これらはJASON(JEOL Analytical Software Network) ver.2.0によるものです。